

講義ユニット名	消化器	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	ちややま かずあき 茶山 一彰	所属	消化器・代謝内科 (内線 5190)
		メール	chayama@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	おち ひでのり 越智 秀典	所属	消化器・代謝内科 (内線 5955)
		メール	hochi@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	消化器病学は、消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）、肝臓、胆嚢、膵臓など、解剖、機能、疾病に関して学ぶ学問である。腫瘍性疾患（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌など）、炎症性疾患（ウイルス性肝炎、炎症性腸疾患、膵炎など）、感染性疾患、代謝性疾患等、当分野の扱う疾患は非常に多岐にわたる。日常診療においても、消化器疾患に遭遇する機会は多く、これらについて基本的な知識を獲得し、内科的・外科的治療法につき、習熟しておくことは極めて重要である。本ユニットの講義では、消化器疾患への理解を深め、基本的知識を習得し、将来の臨床に役立てることを目標とする。		
	<p>各消化器官の位置、形態と血管を図示できる。</p> <p>腹膜と臓器の関係を説明できる。</p> <p>食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。</p> <p>消化管運動の仕組みを説明できる。</p> <p>消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。</p> <p>肝の構造と機能を説明できる。</p> <p>胃液の作用と分泌機序を説明できる。</p> <p>胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。</p> <p>膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。</p> <p>小腸における消化・吸収を説明できる。</p> <p>大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。</p> <p>主な消化管ホルモンの作用を説明できる。</p> <p>消化管の正常細菌叢の役割を説明できる。</p> <p>便秘・下痢の原因と病態を説明できる。</p> <p>便秘・下痢患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>吐血・下血の原因と病態を説明できる。</p> <p>吐血・下血患者の診断の要点を列挙できる。</p> <p>吐血・下血患者の初期治療を概説できる。</p> <p>細菌性食中毒の病因、症候と治療を説明できる。</p> <p>代表的な肝炎ウイルス検査の検査項目を列挙し、その意義を説明できる。</p> <p>消化器関連の代表的な腫瘍マーカー（AFP、CEA、CA19-9）の意義を説明できる。</p> <p>消化器系疾患の画像検査を列挙し、検査から得られる情報を説明できる。</p> <p>消化器内視鏡検査から得られる情報を説明できる。</p> <p>生検と細胞診の意義と適応を説明できる。</p> <p>肝腫大をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。</p> <p>肝腫大のある患者における医療面接、診察と診断の要点を説明できる。</p> <p>食道癌の病理、肉眼分類と進行度分類を説明できる。</p> <p>食道癌の症候、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>食道静脈瘤の病態生理、内視鏡分類と治療を説明できる。</p> <p>胃食道逆流症[逆流性食道炎<GERD>]の病態生理、症候と診断を説明できる。</p> <p>Mallory - Weiss（マロリー・ワイス）症候群を概説できる。</p> <p>胃癌の疫学、病理、症候、肉眼分類と進行度分類を説明できる。</p> <p>胃癌の診断法を列挙し、所見とその意義を説明できる。</p> <p>胃癌の進行度に応じた治療を概説できる。</p> <p>消化性潰瘍の病因、症候、ステージ分類、診断と治療を説明できる。</p> <p>Helicobacter pylori<ヘリコバクター・ピロリ>感染症の診断と治療を説明できる。</p> <p>胃ポリープの病理と肉眼分類を説明できる。</p> <p>急性胃粘膜病変の概念、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性胃炎を概説できる。</p> <p>胃切除後症候群の病態生理を説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの 到達目標</p>	<p>肥厚性幽門狭窄症を概説できる。 大腸癌の病理と分類（肉眼、進行度、病期）を説明できる。 大腸癌の症候、診断と治療を説明できる。 大腸ポリープの分類、症候、診断と治療を説明できる。 急性虫垂炎の症候、診断と治療を説明できる。 腸閉塞（イレウス）の病因、症候、診断と治療を説明できる。 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・Crohn（クローン）病）の病態、症候、診断と治療を説明できる。 痔核と痔瘻の病態、症候と診断を説明できる。 過敏性腸症候群を概説できる。 腸管憩室を概説できる。 薬剤性大腸炎を概説できる。 消化管ポリポーシスを概説できる。 大腸の主な先天性疾患（鎖肛、Hirschsprung（ヒルシュシュプルング）病）を概説できる。 腸重積症を概説できる。 消化管カルチノイドを概説できる。 アミロイドーシスを概説できる。 胆石症の病因、症候、診断と治療を説明できる。 胆嚢炎と胆管炎の病因、病態、症候、診断、合併症と治療を説明できる。 胆嚢・胆管癌の病理、症候、診断と治療を説明できる。 胆嚢ポリープを概説できる。 先天性胆道拡張症と膵・胆管合流異常症を概説できる。 A型・B型・C型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。 急性肝炎、劇症肝炎と慢性肝炎の定義を説明できる。 肝硬変の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。 肝硬変の合併症（門脈圧亢進症と肝性脳症）を概説できる。 原発性肝癌の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。 アルコール性肝障害を概説できる。 薬物性肝障害を概説できる。 肝膿瘍の症候、診断と治療を説明できる。 ヘモクロマトーシスを概説できる。 Wilson（ウィルソン）病を概説できる。 急性膵炎（アルコール性、胆石性、特発性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 慢性膵炎（アルコール性、特発性）の病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。 膵癌の病理、症候と診断を説明できる。 重症急性膵炎の病態生理、診断基準と治療を説明できる。 嚢胞性膵疾患の分類と病理を説明できる。 腹膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ヘルニアの概念（滑脱、嵌頓、絞扼性）と好発部位を説明できる。 鼠径ヘルニアの病因、診断と治療を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。 要件に抵触した学生についてはユニットの教務担当教員が当該学生と面談を行い、チューターとも相談した上で受験資格について判断することとする。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格点は60点とする。</p>

推奨参考書

【購入を推奨する参考書】
「カラー版 消化器病学 基礎と臨床」西村書店
各講義ごとに必要に応じてプリントを配布する